

第18回東日本電協定期委員会開催される

2月4日に東京の海員会館に於いて、第18回国労東日本電気協議会定期委員会が開催され、各地方からの委員及び分科会担当役員の29名中26名が出席し、傍聴者5名を合わせて31名の仲間が結集した中で行われた(翌5日は交流会を開催)。岸副議長の開会挨拶に始まり、委員会の議長には東京地電協の井上委員を選出し、最初に東日本本部の拡大委員会開催を翌日に控えていたため東日本本部から樋口執行委員が出席し、忙しい中で挨拶だけを戴きました。その中で1047名の不採用問題の早期解決にむけての取り組みについて 東日本の取り組みとしてアスベストの実態調査と被害を拡大させない取り組み シニア雇用の労働条件改善の取り組み 昇進昇格差別の和解からの今後の課題 2008計画によるリモートマルス導入、出改札の管理委託合理化が提案されている中で、メンテナンス合理化の見直しについて申がまだ出されていない 組織拡大の取り組みについての報告を受けました。斉藤議長の挨拶では、メンテナンス合理化の見直し要求がまだ会社に出されていないので、委員会の中で追加部分等の意見をまとめてもらいたい。山手貨物で触車事故があり、原則線閉がとられている中で、西日本の伯備線で触車事故が起きた。なぜ起きたのかが問われる。また羽越線の脱線事故からは、地震計・風速計が運転と連動していないので、指令員や駅の判断になっている。合理化との関係を各機関での協議が必要だ。出向会社との団体交渉について、テムズとビルテックは出されているが、日本電設についても出向連に入りたいので要求の提出を早急にあげてもらいたい、と提起された。来賓として全国電協連絡会の北島事務長より、この間の事故や過去の事故から学ぶべき安全対策に自分たちがどう取り組み、摘発、改善させることが重要ではないか、と挨拶を受けました。

分科・地区電協の報告から

強電分科 昨年の交流会で新型検測車の導入されてからの問題点を実態の突合せから討論してきた。業務区分の曖昧さや効率的になっていない。メンテ以降、いまだに業務区分が明確にならず、NEWS Sのデータも不十分で、設備強化もされていない。国労の組合員は研修にいかされていない。

弱電分科 中央線での事故以降、チェック表の受理の問題や認定制度導入後の使用開始前判定の関係が明確になっていない。出向者が団体交渉に年休を取らないと参加できないので改善してもらいたい。

新幹線分科 検測車走行で折り返しの部分とかで、設管にデータを入れないでおくという問題から期ズレになるようなことが生じる。古川あたりまでデジタルATCの導入作業が過密に入るため、保守作業が入らないという問題がある。

貨物分科 線路閉鎖資格認定で問題がある。常態監視装置の導入で個別検査が行われていない。保全の職場に人が少なくなり、管理者のなり手がいない。貨物は出向先に電気の職場がない。

秋田 支社や技セに人が少ない状況で出向に出せない。若いひとが多く入ってきているが、職名と技術力が伴っていない。平成採が半分で、MCの多くに若い人が出る。どう技術継承していくかが問題。

盛岡 青森と盛岡に4名ぐらいずつ採用されている。技セでは半数くらいは平成採で、国労の人もふくめ優遇退職制度で皆やめている。1年間で一人前にするといっているが、何もなければ自主レポートを書かされている。事務センターについては、設備部で事務をまわしている。

仙台 感電事故については、トンネル出口の作業で、き電停止のみで配電停止をとらないで作業した。高圧線の近くに、腕金を取り付ける作業だったが、当日作業変更をしている。高圧は数分前まで停電していたので勘違いがあったと思う。

水戸 個人情報保護の関係で配席表や電話番号を人目に触れないようにと言われている。羽越線事故の関係で風速による規制で毎日のように運転が乱れている。退避遅延が発生しているのでTCの鳴動中は線路にはいるなど工務部長が言っている。今年も新規採用者のテムズ研修が行われた。原則線閉が他の会社でどこまで行われているのか。

千葉 信号通信関係の諸問題として設計ミスが多発している。業務区分が曖昧で定着していない、線閉責任者を一年以上も行っていない人が多くいるが講習や訓練がされていない。電力関係では管理者の出向者が多いので一般からの出向者は少ない。大網変電所の火災では、火災発生から45分も送電を続けるという、何が何でも電気を送り続けるという思想が問題。また、工事局から引き継ぐ際に変電関係者がいなかったのもそのままするという問題もあった。BTでは蛍光灯不点での呼び出し等の問題。(ウラへ)

新潟 電力会社の停電のため在来の列車が全て止めた。特急いなほ脱線事故は新潟支社管内ということで大変であった。昨年から大雪で、除雪は役務契約となっている。変電所はメセから行かないので、技セの変電が出るが遠距離のため、テムズが対応。正月あけの4～9日まで全て除雪、大宮と横浜から応援をもらった。除雪も保線と電力の連携が悪い。出向者が出せないし、エルダーを受けないので、線閉資格をもっている人が少なくなる。プロパーに簡単に資格を取らせる話がある。

高崎 検測車の測定結果をかえているのが問題。昇進昇格の和解があったが、高崎では、合格者が信通で5名、電力はゼロであった。配属でも、名簿搭載者が遠距離へ配属された。信通関係では、若い人が高崎に集中していたが、沼田MCと総入れ替えがあった。

長野 組織は長野4名と松本7名だが、3月に2名退職、さらに60歳になる人が来年2名が退職。優遇退職制度をやめている人もやめた後の仕事が決まっていない現実。今回は国労から3名が主任に合格した。交通事故が3件も発生していて注意するようにいわれている。今年は雪が早くから降っていて、倒木や除雪で設備事故が多い。

大宮 テムズに出向して1年になる。忙しい中で、仕事で写真や点呼時のテープの録音は責任逃れのために行っているようなもの。高崎での墜落事故の関係で、「私は無胴綱にならない」と一人一人が言われている。アトスが導入されて、無線の常態が悪い場所があり、要求をだしている。

八王子 2月に事務センター化の提案をしたいと言う話が出ている。東労組では具体的な話として、9現業区から各1名を出し、契約社員と身障者で支社に置くということらしい。国労組合員が支社に行くことはないと思うが、現場が忙しくなっていることや、諸手当等の間違いが増える心配、雇用不安がある。施策の変更であるので、時間の関係もあるので早急に本部でやってもらいたい。中央線の工事の関係で、テムズの宿直体制というのが提案されている、という問題もある。

(信号分科、通信分科、変電分科、配電分科については割愛させていただきます。後日、文書作成します)

(議長集約)

役員の改選では、斎藤議長以下留任となり、その後、今年の交流会開催地区の新潟地電協からの提案、委員会は岸副議長の閉会の挨拶と団結ガンバローで成功裡に終了しました。

2006年東日本電気協議会役員

議長 斎藤照明(東京)
副議長 北島利則(千葉)
副議長 榎戸輝(東京・貨物)
副議長 伊藤政利(秋田)
副議長 岸三男(高崎)
事務長 高橋広(神奈川)

各分科長

強電分科長 後藤寿昭(八王子)
弱電分科長 佐藤寿喜(盛岡)
新幹線分科長 千葉薫(仙台)
貨物分科長 木本敏彰(仙台)
事務分科長 杉本浩之(八王子)
信号分科担当 中澤唯(東京)
通信分科担当 吉村吉光(神奈川)
変電分科担当 長谷部隆幸(大宮)
配電分科担当 数野正明(八王子)

東日本出向者連絡会

テムズ代表 吉田勉(神奈川)
BT電気代表 井上宏幸(神奈川) 日本電設代表 伏見季之(東京)

今後の予定

3月4日 仙台地電協定期委員会 盛岡地電協定期委員会
3月5日 国労東日本本部 業務部と打合せ 電気・工務協議会合同打合せ
3月11日 千葉地電協定期委員会
4月1日 東京地電協定期委員会
4月22日 大宮地電協定期委員会
6月4日～5日 第18回電気職場交流会(越後湯沢)